

## 「たしざん（２）」

### 1 提案の主張点

子どもがわかる・できるためには、子どもたちに算数の基礎・基本を確実に身に付けさせたいと考えた。

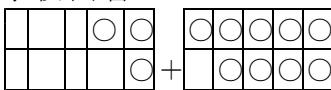
まず、子どもたちにどんな支援が必要かを明らかにするために、B（既習内容や経験）T（教師が教えること・約束事）C（子どもが見つかること）の分析を行った。

次に、誤答例を参考に予想されるつまづきを考えた。本単元では、今までの誤答の集積や子どもの実態調査から補数を見つけることにつまづく子どもが多いと予想を立てて個にあった支援の仕方考えた。

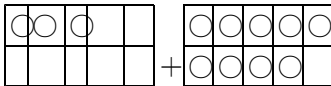
さらに、教材・教具の工夫をした。個人差の大きいクラスほど多様な教材教具が必要となる。視覚で捉えさせるものや個に合った教材教具を準備することで、「わかる・できる」授業に近づきたいと考えた。

一つ目として、子どもたちに身近な卵パックを実際に使った導入をし、学校図書の教科書とは違うが、卵としてより自然な数の置き方、補数を見つけやすい置き方（啓林館）を提示した。

学校図書



提示した置き方（啓林館）



二つ目に、補数カードを常時教室に掲示し、一日のどこかでドリルをするようにし、定着を図った。子どもたちは掲示を見て休み時間にも友達と問題を出し合っていた。

### 2 提案に対する意見

- ・ 加数分解・被加数分解を数に応じて使い分けられるのが高いレベルであると考えるが、

提案の授業では、算数の苦手な子どもに「数の小さい方を引越しさせる」を合言葉にこれを行わせているのは適切ではないのではないか。

- ・ 啓林では、たし算（２）に入る前に、３つの数の計算（例  $7 + 3 + 2 = 7$  と  $3$  で  $10$ 、 $10$  と  $2$  で  $12$ ）で、 $10$  を作るよさや  $10$  といくつといった考え方を経験できているのがよい。

### 3 御指導

この単元を終えた子どもの理想の姿は、 $3 + 9$  の式を見たときに○図や数を念頭で操作して  $10$  のかたまりを作り、 $10$  といくつの考えを使って答えを導き出せる姿である。

減加法か減々法かという討論とよく似た討論になった。大事なことは、数によって判断する思考力を育てることである。高学年になって、 $99 + 5 = 100 + 5 - 1$  と工夫して計算できるような子に育てたい。ただ、苦手な子にとっては、「数の小さい方を引越しさせる」というやり方が加数分解・被加数分解両方を使うことになるため混乱することも出てくるだろう。

学校図書の教科書では、自力解決の場での子どもの考えが多く載せられている。啓林館の教科書では、最終的に選ばれる加数分解のみが載せられているが、行間を読み、多様な考えを出し合わせることは必要である。

たし算では、たす数とたされる数を入れ替えても答えは同じであるが、文章問題となると事情が変わってくる。合併の問題では数を入れ替えても問題ないが、増加の問題では式の意味が違って来るからである。

$100$  マス計算では、加数分解を使わないと計算が速くできない。苦手な子どもにとっては加数分解をしっかり練習する方がよいだろう。